

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

「イエール・同志社 交流会」を開催

7月6日(月)、「イエール・同志社 交流会」(同志社校友会、学校法人同志社共催)を開催した。今回の交流会は、米国イエール大学校友会A Y A (Association of Yale Alumni)の熱心な呼びかけにより、東京と京都で開催される交流会「Yale GALE-UMIC 2009」の一環として実現した。当日はA Y A 一行53人をお迎えし、同志社校友会員・学生等約400人が参加した。

寒梅館でのオープンカンファレンスは、本学グリークラブOBによるカレッジソングで開会した。両校のカレッジソングは同一メロディーのため、双方の歌詞で斉唱した。八田英二学長とエドウィン・キムジー氏(A Y A 理事会ボードメンバー)の挨拶の後、リチャード・レヴィン・イエール大学学長からのビデオメッセージも紹介された。

引き続き、デビッド・サンチェス氏(Yale Club of Miami & Yale Club of Latin America 会長)とエドワード・グリーンバーク氏(前A Y A 理事会ボードメンバー)による講演が行われた。講演でサンチェ氏は、「イエールサバースの日」について紹介した。イエールは他者への奉仕を伝統としており、毎年5月の第三土曜日に様々な催しを開いて、地域社会への奉仕を行っているという。「イエール同窓生以外にも巻き込むことで、同窓生同士の結びつきはもろろん地域社会との結びつきも深められる」としている。グリーンバーク氏は、「イエール・アルムナイ・コーラ

ス」という同窓会コーラスを取り上げ、その組織運営や活動内容について話した。



同志社からは、本井康博神学部教授と大谷實総長による講演、また今井絢さん(法学部3年次生)が世界学生環境サミットの活動報告を行った。本井教授は「同志社とイエールには深いつながりがあり、その原点は新島襄にある」とし、新島がイエールの学長だったノア・ポーター氏と親交があっ

たことなどを紹介した。大谷實総長は、「同志社の国際主義」と題して同志社の取り組みや教育理念について説明し、「二国の良心として国際舞台で活躍できる人物を育てたい」と語った。

その後、学生通訳ボランティアによるキャンパスツアー、新島会館に場所を移してのフロアエンターテイメント(茶道、書道、華道など日本文化の紹介)とレセプションが行われ、両校の交流がより一層深められた。

(広報課)

註 GALE = Global Alumni Leadership Exchange
UMIC = University Management Initiative Consortium

グローバルスタディーズ研究科 開設記念公開講演会

2010年4月開設予定のグローバル・スタディーズ研究科は、7月4日(土)と18日(土)の2回にわたり、開設記念公開講演会を神学館礼拝堂で開催した。

7月4日は、「オバマ政権はイスラームとの衝突から和解を実現できるか? グローバル社会におけるテロ抑止の基本条件とは何か」と題し、講師に内藤正典(一橋大学大学院教授(2010年4月着任予定))を招き、講演を行った。内藤氏は、オバマ政権とアメリカの国内外のイスラームとの関わりについて、オバマ氏の大統領選挙の前から現在に至るまでの発言を取り上げ、とくに

2009年4月のブラハ演説は歴代米国大統領の中でイスラーム教に対して最も踏み込んだ内容であると指摘し、アメリカの外交政策の今後の展望について述べられた。

続いて7月18日には、中西久枝名古屋大学大学院教授(2010年4月着任予定)を迎え、「グローバルな視点から世界を見る―中東から見た平和と民主主義」と題して、講演を行った。中西氏は、中東各国における指導者と国民との関わりや、中東各国の対外政策を紹介しながら、国際協力や平和構築に関わる際に持つべき視点について力説された。なかでも日本における中東関係の情報がやや一面的であるところから、中東情勢についてのより正確でバランスのとれた把握が必要であると強調された。

両日とも、参加者は熱心に講演に耳を傾け、講演終了後は様々な年代の参加者から質問が寄せられた。講演終了後、博遠館で新研究科の3つの研究クラスター(アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究)についての説明会が行われ、参加者と教員との間で熱心に質疑応答が行われた。(グローバル・スタディーズ研究科設置準備室)

政策学部生、京田辺市の商店街活性化に取り組み

政策学部の学生たちが地域の商店街を活性化する地道な実践的研究に取り組ん



でいる。京田辺校地には、ほど近い近鉄新田辺駅東口にあるキララ商店街周辺で、7月11日(土)「キララフェスティバル2009」(同実行委主催)が催された。歩行者天国になった会場一帯では、飲食店を中心に約15の出店が並び、コンテストやビンゴゲームなどで盛り上がった。実行委メンバーに加わった政策学部の学生10数人は、商店街約150店舗の商店主らと協力しながら半年ほど前から準備にとりかかり、企画立案から当日の運営に至るまで獅子奮迅の活躍をみせた。



に向けた知恵と感性がほしい」。京田辺市や同市商工会などから本学に要請があったのは、一昨年のことだった。10月に各ゼミの有志が「SHAT」(新田辺東商店街アクティベーション・チームの略)を結成した。これまでSHATは約50人が活動してきた。当初の商店街では「学生はターゲットにしない」との見方も少なくなかったが、学生たちの熱意が徐々に伝わり、今では相互理解も深まってきた。前代表の今井真星さん(4年次生)は「自分たちで考え、行動することで学べる点が多い。そのうえで地元の人たちの力になればうれしい」。

現代表の山崎雄亮さん(3年次生)は「商店街をどう元気にするか。いざ実践するとなると、難しいですがやりがいもあります」。単なる研究対象を超えた地域活性化への意欲がチーム全員にみながっている。

ただ、将来に向けた課題も多い。今井さんは「大学は果実を地域還元できていないし、地域は受け入れ態勢が弱く、学生の力を十分取り込めていない。まず自分たちの身近なところから意識向上を図りたい」という。今後も紆余曲折はあるが、地域への学生たちの熱い思いが一日も早く実を結ぶ日を楽しみにしている。

(広報課)

オープンキャンパス 2009開催

7月19日(日)京田辺キャンパス、7月26日(日)今出川キャンパスにおいて、オープンキャンパスを開催し、両日合わせて約10,000人の来場者があった。

両日とも、教員による学部・学科紹介、入試説明会、AO説明会、留学説明会を行った。個別相談ブースでは、本学の教職員が来場した受験生や保護者から、学部・入試、留学、就職、奨学金、課外活動などに関する相談に応じた。

学部の独自イベントでは、CALL授業、模擬授業、研究室、実験室の紹介が行われ、参加した受験生と保護者が熱心に説明に耳を傾けている姿が印象的であった。

この他にも、図書館及び歴史資料館の見学、在学生ガイドによるキャンパスツアー、Zeeima Roomの見学、パイプオルガンの演奏などを行い、非常に実りのある2日間となった。

(入学課)



薬物乱用防止公式ポスター デザイン表彰式

8月6日(木)、寒梅館にて薬物乱用防止公式ポスターデザイン入賞団体の表彰式を挙行了。今回のポスター作成は、本学における薬物乱用防止の啓発活動の一環として、文化系公認団体向けにデザインの募集を行った。その結果、4団体から7作品の応募があり、以下の通り受賞作品が決定した。

- 最優秀賞(1点)受賞団体：広告研究会
- 優秀賞(1点)受賞団体：能楽部狂言会
- 入賞(5点)受賞団体：クラマ画会(2点)、学生新聞局(1点)、広告研究会(1点)、能楽部狂言会(1点)



優秀賞



最優秀賞

表彰式では、西村卓学生支援センター所長から受賞団体に表彰状が手渡された。その後、受賞団体の学生と懇談を行い、今回作成されたポスターを一人でも多くの学生

が目にとることによって薬物乱用防止に対する意識が高まることを期待しつつ、表彰式を終了した。

今後、秋学期に受賞全作品を寒梅館1階で展示を行う。最優秀賞、優秀賞に選ばれた作品については本学の薬物乱用防止公式ポスターとして採用し、さまざまな場面で活用する予定である。

(今出川校地学生支援課)

留学生が祇園祭に参加

本学の留学生たちが、祇園祭の山鉦のひとつである南観音山の曳き手に参加した。留学生が南観音山に参加するのは今年で5年目となり、7月17日(金)の鉦巡行での曳き手の他、14・16日には鉦町でちまき販売や観光客に対する鉦の案内などのボランティア活動にも参加した。

オランダからの交換留学生であるバツサント・コリンさんは、「この話を持ちかけられたとき、日本人の友人からも『なかなかできないことだよ』と聞いた。貴重な経験ができてうれしい」。アメリカからの留学生コン・アルバートさんは、「日本に来てこのような機会をもらえてうれしい。祇園祭からは日本の歴史的な雰囲気を感じられます」と、初めての参加に胸を躍らせていた。

一方、ヘンリー・ニコラスさんは、カリフォルニア大学・パークレー在学時に同志社大



学へ交換留学、現在は東京の翻訳会社で勤務しているが、毎年祇園祭のために京都へ足を運び、今年度で5回目の参加となった。「伝統と近代的な雰囲気がミックスされているのが京都の好きなどころ。浴衣などお祭りの服装も好きだし、お囃子も好きです。巡行の際には沿道から応援の声をかけてもらい、外国人でも受け入れてくれていることに感謝しています」と語った。

(広報課)

お知らせ

本学ではさまざまな取り組みが進行しており、今年度は文部科学省から以下の事業に採択されました。

「国際化拠点整備事業」(グローバル30)
「大学教育・学生支援推進事業」 (大学教育推進プログラム)
「大学教育・学生支援推進事業」 (学生支援推進プログラム)
「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」
「教育研究高度化のための支援体制整備事業」

詳しくは<http://www.doshisha.ac.jp>をご覧ください。

■新任教員紹介

この度新たに次の先生方をお迎えしました。

- ①所属 ②職名 ③主な担当科目

6月着任



元山 純
(もとやまじゅん)

- ①生命医科
(医生命システム)
②教授
③特別講義 A



高森 茂雄
(たかもりしげお)

- ①生命医科
(医生命システム)
②教授
③特別講義 B

10月着任



DALISSIER Michel
(だりしえ みしえ)
①文(哲学)
②准教授
③歴史哲学



齋藤 憲道
(さいとうのりみち)
①法(法律)
②教授
③特殊講義



加藤 正晴
(かとう まさはる)
①心理
②准教授
③心理学実験演習



岡野 八代
(おかのやよ)
①アメリカ研究科
②教授
③アメリカの政治と世界

退職教員

9月末で次の先生が退職されました。
●理工(電気) 行村 建 教授

2009年度卒業式・学位授与式

卒業式 学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式				場所
京田辺校地 デイヴィス記念館	栄光館			
3月22日(月・休)	3月21日(日・祝)			3月20日(土)
13時	15時	12時30分	10時	15時 12時30分 10時
文化情報学部・文化情報学研究科 工学部・工学研究科 生命医科学研究科	経済学部・経済学研究科 ビジネス研究科 総合政策科学研究科 司法研究科	政策学部 アメリカ研究科	商学部・商学研究科	法学部・法学研究科 文学部・文学研究科 神学部・神学研究科 社会学部・社会学研究科 留学生別科
場所	場所	場所	場所	場所

2010年度入学式

入学式(大学院)	入学式(日本文学文化学部)	入学式		場所
栄光館	神学館 礼拝堂	京田辺校地 デイヴィス記念館		
4月3日(土)	4月2日(金)	4月1日(木)		日時
10時	16時30分	14時 12時	10時	
全研究科	日本語・日本文化教育センター 留学生別科	神学部 法学部 経済学部 スポーツ健康科学部	文学部 社会学部 理工学部 心理学部	学部・研究科
場所	場所	場所	場所	場所

本学教員の執筆図書を紹介

図書館調べ(価格は税別)

看聞日記と中世文化 植木朝子 他 執筆 森田社 6,800円 会社法 伊藤達史 他 著 有斐閣 2,800円 現代哲学の真実論 新茂之下嶋篤 他 執筆 世界思想社 2,000円 アートを学ぶ 岡林洋 著 ミネルヴァハウス講談社 2,000円 社会の安全と不安全感 庭田茂吉 著 アリス・コン他 訳 朝倉書店 1,800円 宮島達男アートの世界を超えて 岡林洋 編著 ミネルヴァハウス講談社 2,800円 現代社会の財政学 伊藤達史 他 著 晃洋書房 2,800円 ナラティブ・アプローチ 木原浩信 他 執筆 朝倉書店 2,800円 マンガ学入門 竹内オサム 他 編著 ミネルヴァハウス 2,000円 聖樹と古代大和の王宮 辰巳和弘 著 中央公論新社 2,600円 芸術はどこから来てどこへ行くのか 岡林洋 他 編著 晃洋書房 2,000円 本流！マンガ学 竹内オサム 著 晃洋書房 2,300円 商行為法講義(第3版) 森本滋 編著 伊藤達史 他 執筆 成文堂 1,800円 日本のものづくりと経営学 鈴木良始 他 編著 ミネルヴァハウス 2,800円 子どものスポーツ医学入門(新装版) 柳田昌彦 他 著 ラビエータ 1,600円 民事手続法学の新たな地平 徳田和幸 他 執筆 有斐閣 1,600円 テキストデータの統計科学入門 金明哲 著 岩波書店 3,600円 被告人の事情／弁護人の主張 浅野健一 他 執筆 法律文化社 2,400円 身分犯の共犯 十河太郎 著 成文堂 6,500円 秀吉の智略「北野大茶湯」大検証 矢野龍 他 著 淡交社 2,600円 裁判員と「犯罪報道の犯罪」 浅野健一 著 昭和堂 2,300円 西田哲学の二つの風光 山形頼洋 著 朝倉書店 3,200円 財務諸表分析入門 松本敏史 他 著 ビークシー 2,900円 軍事力と現代外交(原書第4版) 村田寛嗣 他 訳 有斐閣 3,100円 世界経済増補改訂版 嶋田巧 編著 八千代出版 3,200円 誤解の理解 井上智義 編 あいじ出版 1,900円 独立の時代 林以昭郎 他 編著 白川恵子 他 執筆 世界思想社 1,600円	大学教育を科学する 山田礼子 編著 井上智義 他 執筆 東信堂 3,000円 近代日本メディア人物誌 山口功一 他 執筆 ミネルヴァハウス 2,800円 スポーツする文学 西川貴子 他 著 青弓社 6,000円 武野紹鷗 わびの創造 矢野龍 他 執筆 思文閣 1,200円 環境ビジネスリスク 黒坂則子 他 執筆 産業環境協賛会 3,000円 発掘された聖書 越後屋明 訳 教文館 4,500円 言語都市・ロンドン1861-1945 真鍋正宏 他 著 藤原書店 8,800円 認め上手 太田肇 著 東洋経済新報社 1,400円 東アジア経済の変容 岡本由美子 他 執筆 晃洋書房 2,800円 ザ・シティ 金融大冒険物語 浜矩子 著 毎日新聞社 1,600円 アメリカ覇権という信仰 浜矩子 他 執筆 藤原書店 2,200円
---	---

卒業生の新刊図書

(価格は税別)

●清水三夫さん (1954年法学部卒) 「考えることで人生は変えられる」 日本経済新聞出版社 1,600円 ●石野はるみさん (1976年文学部研究科修了) 「チヨウサーの自然 —四月の雨が降れば—」 松籟社 2,400円 ●藤岡陽子さん (1994年文学部卒) 「いこまでも白い羽根」 光文社 1,600円 ●野口信行さん (2000年経済学部卒) 「座右のメー」 PHP研究所 1,400円 ●野瀬大樹さん (2000年経済学部卒) 「20代、お金と仕事について 今こそ真剣に考えないと ヤバイですよー」 クロスメディアパブリッシング 1,300円	●野瀬大樹さん (2000年経済学部卒) 「20代、お金と仕事について 今こそ真剣に考えないと ヤバイですよー」 クロスメディアパブリッシング 1,300円
---	---

ダーウィンとゴアと私たち

— 観察眼と洞察力と地球環境 —

昨年からチャールズ・ダーウィンの生涯とアル・ゴアの『An Inconvenient Truth』を読むクラスを設けている。ダーウィンは生誕200周年ということもあるが、実は本命はゴアの書で、地球温暖化を中心に据えて、科学技術と政治・経済問題がいかに緊密に関連しているかを知ってもらいたいという趣旨である。

ダーウィンについて読み始めたときに気づいたことがある。学生たちが自然からずいぶん遠くにいるということ。そこで昨年度は5月の連休に「自然の中に驚きを探そう」という宿題を出した。英語の時間に自然観察？と最初はとまどい気味だった学生たちに、サンプルとして研究室から私のコレクションを持ち出した。「蚕の繭」「オオカマキリの卵塊」「玉虫（♂）私が以前飼っていたの標本」等々、4月中に近郊で撮影した動植物も提示し、人と関わりの深い身近にある自然物の発見法を理解してもらった。連休明けのレポートには、多くの学生たちが「タンポポ」「ツツジ」などの身近な植物で落ち着く中、「普賢寺川の巨

大スッポン」や「クラブハウスに飛び込んだコウモリ」などの力作も寄せられて、観察力と自然への感受性を高めてほしいという狙いは果たせたようだ。

さて、ゴアである。私は、ゴアについては、クリントン元大統領の右腕、父親も上院議員、常にスーツに身を固めたその風貌から、完全な都会派の議員だと思っていた。だが実際はさにあらず。一年のうち8カ月のワシントンDCの議員宿舎と、待ちこがれた4カ月間のテネシー州の実家での休暇、この幼い頃からの都会と田舎の往復生活が、人の営為とそれを支える自然の恵みへの気づきをゴアの中に培ったようである。An Inconvenient Truthには、客観的なデータに基づく地球温暖化の科学的な記述と、プライベートな視点から綴った私的な回想録が交互に展開し、地球環境の問題が個人の生き方と深く関わることを知らせてくれる。

印象に残る挿話が二つある。一つは少年ゴアが父親に農場の管理の重要性を教えられる挿話。父は耕されたばかりの畑

に降る雨が流れとなるのを見て、小枝や小石でその流れを止めることを教える。貴重な表土の流出を、それが「兆候」としか見られないような時点から防止することの大切さを教えたのであった。もう一つは、ゴアが心より尊敬して慕っていた姉を、肺癌で亡くした挿話。姉の死がゴア一家にとって特に耐えられないものとなったのは、姉の苦しみもさることながら、肺癌の原因として当時すでに指摘されていたタバコを、ゴアの農園そのものが、姉が病に倒れてからも栽培し続けていたことであった。これら二つの挿話は、原因と結果を洞察して、来るべき事態に的確に対処することが人にとっていかに困難か、しかし大切なことを語る。

地球環境への感性和温暖化を理解する知識を養ってもらおうと取り上げたダーウィンとゴアであるが、かなり難解なテキストの素読に、学生たちはとまどいながらも意欲的に取り組んでくれたようである。科学技術の著しい進歩が、環境はもとより政治や経済や倫理など人間生活のあらゆる部分に影響を与え

ている現在、長いスパンと巨視的な視点をもって、人間の営みを見直す視座を身につけてほしいと願っている。



Haruo Nishino

西納 春雄

言語文化教育研究センター准教授

同志社大学英文学科および大学院修了。ケンブリッジ大学等で客員研究員。専門は中世文学およびコンピュータ援用語学教育。世界で活躍できる人材を育てようと、現在国際センターにて協定校の開拓にも努めている。

聞く 枋迫 篤昌さんに

とち さこ あつ まさ

マイクロファイナンス・インターナショナル・コーポレーション社長

インタビュー
北川 桃子さん
「政策学部政策学科」3年次生



北川 ● それでは、まず大学を卒業されてからの歩みをお聞かせください。

枋迫 ● 実は私、学生時代はどうしてもパイロットになりたかったのです。そのためにいろいろな準備をしていたのですが、私が卒業した1976年はオイルショックの影響で経済が悪化し、航空会社がパイロットの採用をしなかったのです。それで、本当は銀行員にはなりたくないと思っていたのに、思いがけず東京銀行に拾っていただくことになりました。銀行に入るのが同期5人の中で私だけが留学試験に手を上げなかった。表向きは「刻も早く金融のプロになるために実務を身に付けたいので留学試験は受けない」と言っていたのですが、本心はパイロットの採用試験が復活すればこちらに挑戦したいと思っていたのです。

北川 ● それでもメキシコへ留学されたんですね。

枋迫 ● 大阪支店に呼ばれて面接があり、訳のわからないまま「メキシコの語学研修生を命ず」という辞令が出ました(笑)。そのとき私は25歳。そこで思いもしない中南米との接点があったのですが、スペイン語の「ス」の字も知らなかった。初めてメキシコシティに着いたときは大変でした。いきなり朝5時の始発のバスに乗って大学のあるグアナフアトという町へ行き、入学や生活の手続きをするように言われたのです。その当時のグアナフアトには、英語をしゃべる人も日本人もいません。学生生活が始まった大学で在学証明が取れないとか、日本から送った荷物のほとんどがなくなっているとか、いろいろなトラブルが連続して起こり、嫌で

もスペイン語をしゃべらないとやっていけない。そういう状況ですから、とにかく一生懸命スペイン語を勉強したのですが、そんなときに自分の運命を決める出来事があったのです。

北川 ● それはどんなことだったのですか。

枋迫 ● あるとき道端でタペストリーを売っている露天商の人と知り合って仲良くなり、食事に誘われたのです。出してもらった夕食はスープボウル1杯のコンソメスープのようなものとトウモロコシの粉を練って作ったトルティージャ、あとは豆の煮込みでした。それをいただいて夜帰ろうとしたら4歳ぐらいの小さな男の子が来てこう言うのです。「お兄ちゃんが来てくれたから、今晚僕は肉が食べられた」。そこで私が返した質問は「生憎が残るものです。薄いスープにトルティージャと豆、ここにも肉なんてなかったはずと思ったので、今日

枋迫 篤昌さん 【1976年商学部卒業】

1953年生まれ、広島県出身。東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入行し、79年から2年間メキシコに留学。その後、エクアドル、ペルー、パナマ、米国(アトランタ、ワシントンDC)と海外勤務は通算17年。2003年3月ワシントン事務所長を最後に退社し、同年6月マイクロファイナンス・インターナショナル・コーポレーションを設立。北米の出稼ぎ移民を対象に開発した送金システムは、アメリカ連邦準備理事会(FRB)が米国内の全ての銀行に提供する新国際送金システムに採用されることも決定している。





肉なんて食べたっけ」と聞いたのです。そうすると、その少年は「すごくおいしかった。僕は半ばぶりに肉を食べたんだ」。そう言われてみると、スープの中に薄い葉っぱのようなものが浮いていたような気がする。私にはとても肉には思えなかったのですが、彼にとつては半年ぶりに食べるごちそうだったのです。私の幼少時代も決して豊かではありませんでしたが、この人たちは一生懸命働いても自分の生活を改善できるチャンスがない子どもに満足な食事を食べさせることができない…。

北川 ●切ないお話ですね。

枋迫 ●私は、金融は経済と社会の血液であり、それを体の隅々まで送り出すのが心臓、すなわち金融機関の役割だと定義づけていたのですが、メキシコの露天商の親子との経験から、どうすればそういう人たちに金融というものが届くのか。金融機関は社会の隅々に血液を送り届けるという使命がありながら、社会のピラミッドの中間から上の階層にしかサービス

を提供しない組織になってしまっているのではないかと。26歳の自分が今何かをできるわけではないけれど、名実ともに金融のプロと呼べる域に達したときには、そういう人たちに具体的なチャンスが与えられるような金融サービスのモデルを実現したい。そう思うようになったのです。その後エクアドルに派遣され、それからペルーのリマに行き、いったん日本に戻った後、2年後に今度は中米のパナマで6年近く滞在しました。私が赴任した先の人々はほとんど、極度の貧困を余儀なくされていました。社会の底辺の生活を間近に見て、私はひとつの運命の流れというものを感じたのです。

北川 ●その後しばらくは日本に。

枋迫 ●パナマからアメリカのアトランタに転動した後、帰国しました。それから7年間日本にいてことになるのですが、その間、バブル崩壊後の不良債権処理に追われていました。最後の3年間は2つの大きな会社の再建を一人で担当していたので、私が倒れたり放り出したりすると、会社だけでなく日本の経済全体に影響が及ぶ。ですから3年間ほとんど1日も休みなく働きました。そして46歳になつたとき、アメリカのワシントン事務所長の辞令が出ました。でも、私は以前から事あるごとに『私には26歳のときにやろうと決めたことがあります。国際開発問題の中心地であるワシントンに渡り、世界中でこれまで誰もやらない、やろうとしなかったことを手懸けてみたい』と思っています。成功する確率は半分以下かもしれないませんが、私がやらなければおそろく世界中の誰もやらない。銀行に迷惑

をかけたことはありませんので、辞めさせてください』と言つてきていましたので、もう再び日本に帰つて来るつもりはありませんでした。日本にあった家も処分して全ての退路を断つてワシントンに赴任したわけです。それが2000年2月のことでした。ワシントンでは、銀行の仕事は全うしながら、一方で自分の仕事のための準備を始める必要ありません。まず考えたのは、ワシントンでの常識を学ぶために経営学修士MBAを取ることです。仕事に支障をきたさないようにするため、事務所から近い大学の夜間コースに通うことにしました。

北川 ●やがて銀行を退社、マイクロファイナンス・インターナショナルコーポレーション(MFIC)を設立されたのが2003年6月。枋迫さんがお考えになつた「世界中の誰もやらない」ビジネスとはどんなものなのでしょうか。

枋迫 ●ODAなどの先進国からの経済援助に依ることなく、出稼ぎ移民の送金資金の流れをうまく活用して家族の生活改善や自国の経済活性化も実現する「出稼ぎ送金資金の途上国開発への有効利用」(Productive Remittance)です。従来は、送金はすべてが現金で引き出され(金融システムの外に出てしまふ)、消費を待つだけでしたが、MFICのビジネスモデルは送金資金の流れを途上国のマイクロファイナンス活性化に結びつけることに成功した、世界で初めてのイノベーションと言われています。個人のお客様から見るとMFICのサービスの魅力というのは、家族への仕送り送金を業界で最低料金にし、かつ受付完了直後には家族が受け取れるという、金融業界では考えられなかった奇跡を実現した

ことでしょうか。これを可能にしたのは、私の27年間の金融マンとして得た知識経験の全てを投入して開発した入魂の送金決済システムです。アメリカでは約5000万人の中南米移民が、母国に年6兆円もの送金をしています。が、その多くは送る側も受け取る側も銀行口座を持っていないために、送金額の10%以上という高い手数料がかかる送金業者に頼らざるを得ない。MFICではインターネットを使い、1%という低い手数料で、しかも送金すれば直ちに現地で現金を受け取れるようにしました。先進国で一生懸命働いているご主人と途上国で待つ家族を送金のネットワークという見えない糸でつないで、両サイドのニーズにあった金融サービスを提供するというのがこのビジネスモデルの一番の主旨です。送金する移民の最大のニーズは汗と涙で稼いだお金をすぐに家族に渡すことです。貧困とは、生産意欲を失わせて廃人にしてしまう、恐ろしい精神的伝染病です。私は国際機関で働く人たちによくこう言います。「あなたが昨日見た300万人の貧しい人たちは、今日見ている300万人とは違うのですよ。あなたが1日対応を先延ばししたせいで昨日の300万人が見殺しにされ、今日の300万人は新たに生まれたニューボンプアーズなのです」と。国際機関は貧困削減の美名の下に調査研究に何年も費やして、結局何の対策も講じない。解決を先延ばしにしてはいけない。移民の生活を支える資金はすぐに届けないと死活問題なのです。今すぐにやらないと間に合わないのです。

北川 ●私も15年間アメリカで暮らした経験があり、中南米の移民の方は厳しい環境に置か



れていると感じていました。

枋迫 ●アメリカは、自由と民主主義を謳ってきた国なのに、英語を満足にしゃべれない人や汚い身なりの人に対してすごく排他的です。いろんな人種が微妙に住み分けて何となく調和を保っている国なのに、そういう人たちに対してメインストリートの金融機関はほとんど見向きもしない。しかも、窓口には必ず防弾ガラスと鉄格子が設置されていて「我々はお前たちを信用していないんだ」という明確な意思表示がされています。私たちの店舗では30センチ程度のカウンターのほか、防弾ガラスや鉄格子などは何もありません。お客様と話し合い、相互の信頼関係を作りましょうという発想です。そこに日本人が考える細かいカスタマーサービスを採り入れることで、評判が口コミで広がっていき、店舗を開設して1年後には1万人ほどの固定客ができました。あるお客様は「私はアメリカに来て15年以上住んでいるけれど、この店で初めてお客としての扱いをして

もらった」と言っていて泣いていました。メキシコでの体験からここまで来て、ようやくビジネスとしてたくさんの人に認められるようになり、世界中に普及できる体制が整ってきました。ワシントンから世界99カ国、約7万拠点に送金などの金融サービスを届けられるようになりました。少子化が進む日本では今後外国人労働者を受け入れていかなくてはなりません。そのためには、出稼ぎに来る外国人が母国の家族に送金できる社会インフラを整備していかなくてはいいけない。幸い日本でも銀行以外でも送金サービスが取り扱えるようになり、今後は日本にもシステムを持つてきて、街角のコンビニや全国の郵便局で手軽に1件1000円くらいで世界中に送れるようなインフラを作っていきたいと考えています。

北川 ●枋迫さんのビジネスの考え方や生き方は同志社大学で学んだことが出発点になっているのでしょうか。

枋迫 ●そうですね、同志社をファーストステップとして銀行に入ることができ、そこから未知の体験を重ね、さまざま人たちとの出会いを大切にしながら今までやってきました。その中で思うのは、人間として生まれたら、ある程度成長するまでは利己主義で自分のために吸収していくことが必要なのですが、ある一定のところまで来たら何かひとつは人の役に立つような新しいことを生み出さなければならぬということ。私自身これまでの人生の中でたくさんの方にチャンスを与えましたが、それをいただいた方に直接返すわけにはいきませ

ないので、後輩や次世代の人たちに、志や意欲を持つてやれば何か新しいことが生み出せるというのを伝えたい。最近よく若い人が何をやるべきかわからないと言いますが、わかって当然です。わからないからとりあえず目の前にあることを生懸命やる。するとどこかで「あつ」と思うようなことが必ず出てきますから、そのときにそれを感じ取れるだけの感性を維持することが大事だと思つたのです。そして、大舞台で最大限のパフォーマンスを発揮できるように、常に自分を鍛えておいてほしい。

北川 ●ところで、パイロットの夢を断念されたのはいつなのでしょう。

枋迫 ●それはやはりメキシコに行ったときですね。1979年の1月。皮肉なものでその年の4月からパイロットの採用試験が再開されたのです。これも運命ですね。私は信心深くもないし神頼みもしませんが、ひとつの大きな流れがあるとは思つたのです。順番とタイミングと流れがうまく組み合わさってひとつの人生があると思うので、出会いを信じて、感じたときにはまず行動に移してみることが大事です。頭のいい人は同じところに立つて何度もコミュニケーションをするのですが、コミュニケーションをしてやっぱりダメだと結論を出したときには一歩も動いていなくて、ただ時間だけが過ぎていく。コミュニケーションだけで実際には何もやらない、これはやはり生き方として間違っていると思うのです。考えるのは半分くらいにして、まず行動する、体験する、それで失敗したらもう一度戻って違うやり方でやればいい。失敗することは経験ですから、トライアンドエラーがないと人間は成長しません。

この出会いが人生の大きな転機になりそうな予感

アメリカに15年住んで日本に帰国した理由のひとつに、日本人としてのアイデンティティを確立するため、日本でしっかり教育を受けるということがありました。両親も、日本人としての基盤を固めた上で、その後海外へ出たいなら出て欲しいという思いがあったようです。今まで国連で働くことが夢だったのですが、その意義を問い直す意味からも、今回のインタビューが私にとって人生が変わるきっかけになると強く感じています。

INTERVIEWER

北川 桃子さん
政策学部政策学科3年次生

1歳から15歳までアメリカ・カリフォルニア州で暮らす。帰国後、鹿児島県の高校に入学。2年生のときにはニューヨークの国連会議に参加した。卒業後の進路は未定だが、今のところ大学院へ進む気持ちが強いという。



このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

図書館司書とアメリカ。両方の夢を叶えた今、次のステップを考える。



は2005年にそれを獲得しました。

図書館司書を目指したのは、本が好きだというのがひとつの理由だったのですが、大学で司書課程を履修しているうち、図書館司書という仕事には「ものを調べる楽しさ」があると感じたからです。大学院でもっと深く勉強しようと考えたのですが、当時の日本の大学院には図書館情報学を専門に勉強できる場所があまりなかったこともあり、思い切って留学することにしたのです。日本の司書資格は取っていましたが、アメリカではアメリカ図書館協会が認定した大学院の修士課程で図書館情報学の修士号を取得しないと図書館司書にはなりません。私はそれを取得できる、カナダのウェスタンオンタリオ大学図書館情報学修士課程で学びました。留学もひとつの夢だったので語学の勉強は

州立アリゾナ大学(University of Arizona)には東アジア(中国・日本)研究を専門とする学部があり、日本研究担当の図書館司書になって10年。日本語の蔵書の購入やレファレンスサービス、図書館資料の使い方を学生に教えることが主な日常業務ですが、日本研究関係以外の業務、図書館全体の予算編成や長期運営計画策定のプロジェクトなどにも携わってきました。一部のアメリカの大学の図書館司書は大学教員に近い位置づけにあり、就職して5年を経ると、それまでの業績や研究発表した論文などの審査を受けます。合格すると、アシスタントライブラリアンからアソシエイトライブラリアンに昇進して終身雇用権を得ることができ、私

していたのですが、それまで一度も海外へ行ったことがありませんでしたから、最初は授業についていくのも必死でした。

図書館司書になりたい、そして外国で働いてみたい、今はその両方の夢が叶っている状態ですが、10年が過ぎ、次のステップを考える時期に来了ます。このままアリゾナ大学図書館でキャリアを積み、それとも他のところに移るのか。例えば、日本へ帰ってくるという選択肢もあります。日本で仕事をするとということになると、今とまったく違う環境で大変だとは思いますが、それも私にとっては新たなチャレンジです。アメリカではある程度の経験を積んできましたが、違った場所ではまだ

何もやれていない。日本で新しいことに挑戦するのもやりがいがあるのではないかと考えています。図書館を取り巻く環境はここ10年ほどで激変しています。インターネットが普及し、自宅でもいろいろなことが調べられますから、図書館を必要としない人も増えていきます。今や図書館は、本を買って置いておくところだけでなく、本という形態に捉われず、情報を集め保存し提供するというのが基本的な機能となっています。図書館が今後どういった方向に向かうにせよ、自分自身もその変化についていかなければいけません。図書館司書という仕事のあり方も変わっていくかもしれませんが、図書館司書をめざす人も多いと思います。情報を取り扱う仕事に関心があるのであれば、変化に柔軟に対応していく能力が必要だと思います。

鎌田 均さん 【1994年文学部文化学科 文化史学専攻卒業】

州立アリゾナ大学図書館
日本研究担当司書

カナダ・ウェスタンオンタリオ大学の図書館情報学修士課程を修了後、カナダ・ビクトリア大学の公共経営学修士課程で公共政策、マネジメントを学ぶ。在学中、州立アリゾナ大学図書館に日本研究担当の司書として採用された。「アメリカの大学は課題が多く、何かしたいと思ってもなかなか時間が十分に取れない。そういった意味では、自分のやりたいことを突き詰められるのが日本の大学の良さですね。大学時代の4年間は貴重です。同志社の4年間でしっかり勉強できたことが良かった」と振り返る。



私と「仕事」

まず飛び込んでみることに。
やりたいことはそこから見つかる。

大学院修了後最初は商社に入社しましたが、その会社のマーケットは今後縮小していくのではないかと、思い、2年目に転職して野村総合研究所(NRI)に入りました。商社ではウェブサイトの作成と営業社員向け研修の企画講師をしていました。ちょうどNRIが教育コンテンツをウェブで作れる人材、しかも営業社員に講習会ができる人を探していたこともあって、その潜在能力を買ってもらえたのだと思います。

NRIでは入社してすぐ教育関連のグループ会社



に出向し、そこから客先である野村證券へ。営業用の新システムやマイクロソフトオフィスのマニュアル・FAQの作成、電話で質問に答えたり講師として直接教えたりと、お客様に喜んでいただき、とても充実していました。そこで4年半働いた結果、できれば証券側の人間としてもっと上流の企画の部分から関わっていきたい、より仕事の幅を広げ、責任の大きな仕事に挑戦したいと思うようになりました。

NRIから野村證券へは転職ではなく、いったん退社して履歴書を書き、から入社試験を受けました。面接ではNRIでやってきたことで何が売りになるのかを考え、4年間で約40回講師を務め、受講者の講師満足度で毎回ほぼ100点を頂いていたこと、マニュアルやFAQを数多く作ってきたこと、また、そうした仕事を通して身につけた、難解なことをわかりやすく伝えることができる能力をアピールしました。野村證券では営業企画部に配属、最初の仕事はコールセンターの設立でした。株券電子化を控えた時期でしたので、たった2カ月で立ち上げなければなら

ませんでした。野村證券には若手にも大きな仕事を任せるという文化があり、経験の浅い私でもこのような新規案件を担当させてもらえたのです。関係する部署と協力して、社内やコールセンターの業務フローの構築、FAQ作成からポスター、リーフレット、ホームページの企画などにも携わり、何とか達成することができました。今はオンライントレードのサービスを担当し、ウェブで取引ができるサービスの企画や運営をしています。数百万人のお客様が自分の作ったサービ

P R O F I L E

福原 澄恵さん

【1998年神学部卒業、2000年神学研究科博士課程(前期課程)組織神学専攻修了】

野村證券株式会社
マーケティング部ネットサービス課
課長代理

岡山県出身。大学院のホスピスの実習として、肺炎患者とその家族に向き合った経験から、相手が何を求め何を伝えようとしているのかを理解し、いかにして相手に自分の思いを伝えるか、わかりやすく伝えるにはどうすればいいかという、コミュニケーションの本質を学んだ。「社会に出るといろいろな人がいます。ビックリするような価値観を持っている人もいます。理解しようと努めなければいけない。それは大学の勉強で得た大切なことです。」



スを利用される、それはすごくやりがいがあることで
すね。

転職を経て3つの会社を経験して思うのは、学生時代にやりたい仕事は意外と見つかりにくいということ。実際に働いてみなければ、自分の好きなこと、向いていることはわかりません。縁があればとりあえず飛び込んで働いてみる。とことんやってみたら、何が見つかると思うのです。でも万一体を壊してしまったり、どうしても合わないときには、転職という選択肢もあります。私は、今が「一番楽しい」と思える仕事に出会えました。後輩の皆さんにもぜひそう思える仕事を見つけてほしいです。自分の経験の中で役に立たないものはありません。大学時代にはできるだけいろいろな経験をして、友人をたくさん作っておくことが大切ですね。

C E M E N T

- 11月17日(火)《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『人間ピラミッド』(ジャン・ルーシュ監督)ほか 17:00～
- 12月4日(金)《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『メシアン』の「われ死者の復活を待ち望む」(リュック・フェラーリ制作)ほか&トーク:伊藤祐二(作曲家) 17:00～
- 12月7日(月)《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『パリのセシル・テイラー』(リュック・フェラーリ制作)ほか 17:00～
- 12月8日(火)《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
ライブ フォルマント兄弟(詳細未定)
- 12月15日(火)《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『リュック・フェラーリある抽象的リアリストの肖像』
(宮岡秀行制作)ほか 17:00～

※詳細は決定次第、学内掲示板・チラシ・大学HPなどで告知します。
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

♪観に行こう聴きに行こう♪ 学生団体10月～11月の活動予定

【寒梅館ハーディーホール】

- 11月7日(土) ギタークラブ「第49回同志社ギタークラブ定期演奏会」
17:00～(16:30)
- 11月23日(月) 邦楽部「邦楽部第78回定期演奏会」 17:00～(16:30)

【寒梅館クローバーホール】

- 10月24日(土)とんがりぼうし「定例コンサート」
14:00～17:30(13:00)
- 10月31日(土)とんがりぼうし&ライラックレインボーズ
「ライラック・とんがりぼうしジョイントコンサート」 13:30～17:00(13:00)

【京田辺校地ハローホール】(ホール広場前含む)

- 10月2日(金) HOCUS-POCUS「10月ステージ」 15:00～
- 10月3日(土) HOCUS-POCUS「10月ステージ」 15:00～
- 10月5日(月) SOUL2SOUL「秋多目ステージ」 12:30～
- 10月6日(火) SOUL2SOUL「秋多目ステージ」 12:30～
- 10月8日(木) プロレス同盟「プロレス興行」 12:30～
- 10月9日(金) F.A.C「デモ演」 12:15～
- 10月10日(土) F.A.C「定期演奏会」 11:00～
- 10月14日(水) 音楽研究会「発表会」 時間未定
- 10月16日(金) F.B.I「映画研究会」 12:30～
- 10月17日(土) PENTA「10月LIVE」 12:30～
- 10月19日(月) ホールアート企画「Hair Show」 12:30～
- 10月22日(木) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～
- 10月22日(木) 軽音楽部「後期コンサート田辺デモ演」 12:15～
- 10月23日(金) 軽音楽部「後期コンサート」 15:00～
- 10月23日(金) とんがりぼうし「デモ演」 12:15～
- 10月24日(土) F.S.S「オープンホールコンサート」 12:00～
- 11月4日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～
- 11月4日(水) F.S.S「デモ演」 12:15～
- 11月6日(金) ライラックレインボーズ「TRF」 12:30～
- 11月6日(金) F.S.S「デモ演」 12:15～
- 11月10日(火) 言文センター「外国文化週間」 時間未定
- 11月11日(水) 言文センター「外国文化週間」 時間未定
- 11月13日(金) とんがりぼうし「3回コンデモ演」 12:15～
- 11月14日(土)とんがりぼうし「3回コン」 10:00～
- 11月16日(月)言文センター「外国文化週間」 時間未定
- 11月17日(火)学生支援課「映画上映」時間未定 時間未定

【学外】

- 11月25日(水) 能楽部「同志社EVE能」 10:00～(9:30) 無料
京都観世会館(地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩5分)
- 11月27日(金) マンドリンクラブ「第155回定期演奏会」
18:30(18:00) 500円
京都府長岡京記念文化会館(阪急電車「長岡天神」駅下車、西へ徒歩6分)

ah

アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方をお招きし、幅広い知識と教養を、書物やテレビを通してではなく、直接講師の人柄に接することにより得られる機会として、アッセンブリーアワーという時間を設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展など、さまざまな形態で開催しています。今回も、皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。

【応募要領】・対象:本学学生

- ・募集する企画の実施期間:10月～12月
- ・応募期間:9月28日(月)～10月15日(木)
- ・学生支援課(両校地)に備え付けの所定の企画書を提出してください。
- ・実施については学生支援課で選考・決定します。
- ・実施予算及び補助額は1企画10万円程度とします。
- ・企画終了後、報告書及び決算書を提出していただきます。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
Mail:ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

今出川校地学生支援課では、寒梅館のイベントをきっかけとして、より多くの方に本学および本学学生の活動に関心を持っていただくため、私たちと共に催しを盛りあげていただける方を募集しています。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口で随時受付しています。

【対象】一般・他大学学生(本学学生・教職員は対象外、会費無料)

【特典】寒梅館イベント情報の郵送、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント、入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引など

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270



京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト参加者募集!

今出川校地学生支援課と学生スタッフが運営する「でまち家」では、各種プログラムの参加者及び学生スタッフを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

【でまち家】京都市上京区寺町通今出川下ル(今出川キャンパスより徒歩7分)

【開室時間】火曜～金曜 11:00～18:00 土曜 9:00～12:00

【TEL/FAX】075-211-5176

【e-mail】ji-machi@mail.doshisha.ac.jp

●京都のわらべ歌を集めて子どもたちに教えよう

♪か～ごめかごめ ♪か～ってうれしいはないちもんめ …子どもの頃遊びましたね。子どもたちと一緒にわらべ歌で遊びながら、現代生活の中で失われつつある季節感や情感を子どもたちに伝え、遊び方付きCDブックを作成します。

【開催日】初回:11月7日(土) 10:00～12:00

(月に1～2回の土曜または日曜。全10回予定。3月最終回)

【定員】大学生15人 【参加費】無料

●季節のイベント

10月17日(土) 10:00～12:00 秋のお祭り体験

鞍馬の火祭、亥の子祭、すいき祭…。10月は「実りの秋」、そして「神を祭る月」。お祭りが目白押しです。お祭りに由来するお菓子を食べながら、秋の祭礼について楽しく学びましょう。

【定員】小学4年生以上15人 【参加費】無料

11月14日(土) 10:00～12:00 秋の草花を生けよう

鴨川やでまち家周辺を散策し、自然に咲いているお花や落ちている枝葉などを拾い集め、市販されている綺麗なお花と組み合わせて生け花をします。秋にはどんな植物が生えているでしょう。どんな生け花になるでしょう。

【定員】小学生～中学生 15人 【参加費】無料

●井戸端会議

「学生(中高生も含む)」と「大人」とが、膝をつき合わせながら、時事問題や様々な考え方があり得る身近な問題について、一定のルールと方式の中で議論を行います。

【開催日】10月27日(火)、11月24日(火)19:00～21:00

【定員】大学生若干名

同志社キャンパスフェスタ

今秋、全国6カ所で「同志社キャンパスフェスタ」を開催します。学部新設や教育改革の動きなど「同志社大学の今」にふれてください。

日 程	地 域	会 場
10月3日(土)	仙 台	仙台ホテル JR「仙台」駅より徒歩2分
10月11日(日)	東 京	六本木ヒルズ森タワー・アカデミーヒルズ49 東京メトロ日比谷線「六本木」駅 1C出口より徒歩3分
10月18日(日)	名古屋	名古屋国際ホテル 地下鉄東山線「栄」駅より徒歩2分
10月24日(土)	岡 山	山陽新聞社本社ビル・さん太ホール JR「岡山」駅より徒歩10分
11月8日(日)	京 都	同志社大学 今出川校地 寒梅館 地下鉄「今出川」駅②番出口より徒歩1分
11月15日(日)	熊 本	熊本全日空ホテルニュースカイ JR「熊本」駅より徒歩8分

トークセッション

「サッカーを通して時代と世界をよみ解く—スポーツジャーナリストのまなざしから—」 中西哲生氏(仙台、東京、名古屋、岡山、熊本会場)
「北京オリンピック銅メダルへの道のり」 朝原 宣治氏×西村 彰氏(京都会場)
・同志社大学の近況報告、学生生活、キャリア支援、入試に関する説明、資料展示など

※詳細は、大学HPでご確認ください。

【お問い合わせ先】 校友・父母課 TEL:075-251-3009

ホームカミングデー2009

11月8日(日)、今年度で10回目となる「同志社大学ホームカミングデー2009」を開催します。卒業生の皆さまを今出川キャンパスにお迎えし、旧師や旧友との再会、在学生の活動を通して、母校との絆をより深めていただく機会となることを願っています。卒業生の皆さま、ぜひ今出川校地にお越しください。

【日時】 11月8日(日) 10:00～16:45

【場所】 今出川キャンパス

●開会式 10:00 同志社礼拝堂

●記念撮影 11:00 クラーク記念館前広場

●学長講演会 11:20～12:00

●卒業生交流レセプション12:30～13:45 (会費制)

●ゼミ・クラス・クラブなどの集会

(教室を開放。事前に校友・父母課へお申し込みください。)

●アトラクション お茶席(野点)、在学生の模擬店、卒業生・在学生の音楽団体による競演、人力俵友之会の「人力車」によるキャンパス散策、応援団の演舞・演奏

●その他、展示、キャンパスツアー、施設公開(同志社礼拝堂、クラーク記念館、新島旧邸…)なども予定しています。

●閉会式 16:30 明徳館前広場

【お問い合わせ先】 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社京田辺祭 愛称ADAM祭

10月31日(土)、11月1日(日)の2日間、「同志社京田辺祭2009」を開催します。期間中は教職員をはじめ、けいはんな地区のさまざまな団体が演奏、模擬店、体験教室、講演会などを催し、お祭りを盛り上げます。このお祭りでは、学生、教職員、市民が一体となって共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成をめざしています。ぜひ京田辺校地にお越しいただき、お祭りのにぎわいを感じてください。

【日時】 10月31日(土)、11月1日(日)

【場所】 京田辺校地

【お問い合わせ】 同志社京田辺祭2009実行委員会
TEL:0774-65-7832

同志社EVE

同志社創立134周年を記念して、今年も今出川校地を中心に「同志社EVE」を開催します。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として、講演会や演劇、演奏会など盛りだくさんの内容となっています。

【日程】 EVE期間 11月1日(日)～28日(土)
出店期間 11月26日(木)～28日(土)

【場所】 今出川校地

【お問い合わせ】 第134回全学EVE実行委員会
TEL:075-251-4452



WOT(ワット) = "What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会 場】 寒梅館ハーディーホール

【料 金】 本学学生・教職員はすべて無料

- 10月1日(木) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)・ブレ企画》
はじめての溝口健二
10:30『西鶴一代女』/13:40『雨月物語』/16:10『山椒大夫』/19:00『近松物語』
500円均一/各回入れ替え制
- 10月8日(木) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
ライブ ジム・オルーク19:00～
- 10月15日(木) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
コンサート アンサンブル・ノマド&トーク&
映画上映『砂漠』(ビル・ヴィオラ監督)18:00～
- 10月22日(木) 新作試写会 (要整理券、詳細未定)
- 10月29日(木) 映画上映『60歳のラブレター』
10:30/13:30/16:00/18:30
- 11月5日(木) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映 17:15『斬人斬馬剣』演奏付上映/18:00『プレイタイム』/
20:20『斬人斬馬剣』サイレント上映
- 11月12日(木) 映画上映『蟹工船』10:30/13:30/16:00/18:30
- 12月5日(土) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『フーガの技法』(石田尚志監督)+
『放蕩息子の帰還』(ストロブ・ユイレ監督)&
コンサート 井上郷子ピアノ・ソロ 16:30～
- 12月10日(木) 講演会(詳細未定)

※詳細は決定次第、学内掲示板・チラシ・大学HPなどで告知します。

※内容は都合により変更となる場合があります。

【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心にさまざまなイベントを開催します。

【会 場】 寒梅館クローバーホール(地階)

【料 金】 本学学生・教職員はすべて無料

- 10月6日(火) トリビュート溝口健二
映画上映『Celebrate CINEMA 101』(宮岡秀行監督)ほか 17:00～
- 10月13日(火) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『ヴァレーズ礼賛』(リュック・フェラーリ制作)ほか&
レクチャー:椎名亮輔(音楽学)17:00～
- 10月20日(火) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
ライブ アコースティック演奏:檜垣智也18:30～
- 10月27日(火) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『アデュー・フィリピーヌ』(ジャック・ロジエ監督)ほか 17:00～
- 11月10日(火) 《21.1世紀の音楽会(アワーミュージック)》
映画上映『ヘルマン・シェルヘンの肖像』(リュック・フェラーリ制作)ほか&
トーク:淡木千尋(翻訳家) 17:00～



国際ソロプチミストアメリカ連盟(SIA)の 学生援護賞1位受賞 ～障がいを持つ社会人学生として～

2006年に京都府職員として採用され、南丹広域振興局に配属になりました。府の政策に関する勉強会で同志社大学の総合政策科学研究科の人と知り合いになったことがきっかけで、同志社で自分のやりたい政策の研究ができると思い、昨年4月から総合政策科学研究科に入学、夜間と土曜日を活用して大学に通っています。

学部時代から障がいの者の社会参加をテーマに勉強していたのですが、大学院での研究を生かし、昨年、京都府の職員が政策提案を行う「きょうと未来づくり提案事業」(平成20年度庁内ベンチャー事業)で、『おでかけバリアフリーマップ』による社会参加の促進を企画立案しました。社会参加で一番問題になるのは、障がい者自身が外に出て行くことです。そのためには移動がしやすい社会づくりがポイントになります。なかでも重要なのは、情報を事前に入手できること。とくにトイレの情報は必要不可欠です。例えば、バリアフリーマップに障がい者用トイレの記載があっても、便座の高さまでは表示されていない。車いすの使用者にとって便座の高さはとても大事な情報で、高さが合わずに車いすから乗り移れないケースも少なくありません。そこで、バリアフリーマップの情報が非常に充実している宮崎県の例を取り上げ、必要な改善点を提案し、知事の前でプレゼンテーションを

しました。そして、今年もまた新たな庁内ベンチャーに参加しています。今は修士論文の執筆がメインとなっていますが、できる限り多くの活動に携わっていくつもりです。

私は小学4年で水泳を始めたのですが、大学3年のときにジャパンパラリンピックで優勝したり、京都市や京都府の賞をいただいたことがあり、水泳をさせてもらえた環境が今の自分につながっていると感じています。さまざまな面で支えてもらっている人たちに感謝する気持ちを忘れてはいけなく常に思っています。これまでの研究活動が評価され、7月に国際的なボランティア組織である国際ソロプチミストアメリカ連盟(SIA)から学生援護賞1位をいただきましたが、推薦してくださった指導教授や京都府職員研修・研究支援センターの職員など、多くの人に感謝しています。受賞できたことに対して、今後何らかの形で返していきたいと思っています。

Profile



林 成道さん

【総合政策科学研究科
博士課程(前期課程)2年次】